

ここまでの論点の整理について

令和4年10月

経済産業省

資源エネルギー庁 新エネルギーシステム課

製造産業局 自動車課

論点（第3回協議会でご議論いただきたいこと）

論点0：基礎的なデータや定義

（例）車両総重量、積載量など言語を統一すべき

論点1：課題・ビジョンの共有

（例）車両、水素価格、支援、インフラ、規制の見直しなど、共通の見通しを共有すべき

論点2：モビリティ分野における水素利用拡大が見込まれる領域、利用拡大の可能性

（例）航続距離が長くて積載量が大きい路線や、充填時間が確保できない部分で活用が見込まれる

論点3：モビリティ分野における水素利用拡大が見込まれる地域

（例）福島、東名阪、福岡など、こうした地域から、水素利用の拡大を期待する

論点4：利用拡大に向けて解決すべき課題（コスト）

（例）車両コストは数倍、燃料価格も倍程度が見込まれるため、普及にあたってはこの削減が必要

論点5：不確実性を減らすために、関係者間で共有することが有益な展望・道筋（供給見通し）

（例）小トラは○年、大トラは●年から市場投入され、2030年には■台量産が可能になる見込み

論点6：不確実性を減らすために、関係者間で共有することが有益な展望・道筋（需要見通し）

（例）4トン車は●台、20トン車は○台程度、2030年までには導入を行いたい

論点7：民間の投資を促すために必要となる政府の対応（規制・制度の見直し）

（例）電動車の特性も踏まえて、車両の長さや重量等の車両開発における車体規制の在り方を検討する必要。輸送業者や荷主において、改正省エネ法により非化石エネルギー転換の取組を進める必要。GXに向けた政府の方針を踏まえた対応が必要。

今後のスケジュール（イメージ）

- 年内のとりまとめに向け、第3回までにいただいたご意見を踏まえ、事務局で論点を整理して、第4回会合でその論点と対応方針をまとめたものを議論。
- 第5回会合で中間とりまとめとしてまとめることを目指す。

